

学校教育目標	健康で心豊かに進んで学ぶ子どもの育成 つながって「みんなで育てよう！神代の子ども」	学校経営方針	長崎県・雲仙市の教育方針を受け、児童や家庭・地域の実態を踏まえ、神代小学校の健康教育等を柱として、知・徳・体の調和のとれた、心豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を備えた児童を家庭・地域・関係機関と連携、協働し育成する。そのため教育に携わる者は、その自覚と高い指導力を身に付け、人権尊重の精神に立った教育を推進する。 ～連携・協働の始まりは、「私たちの子ども」「私たちの学校」「私たちの地域」の思いから～
自校の現状	○児童は明るく元気で学習活動や学校行事に活発に取り組む。 ○長年に渡る健康教育の伝統を受け継いだ活動が盛んで、保護者・地域・児童の健康に対する意識が高い。 ○育友会と学校、地域と学校が連携し、児童の健全育成やふるさと教育に努めている。保護者・地域の学校教育活動への協力や支援が厚い。 ●人権意識を基盤とした人間関係をつくる力(言葉づかいや思いやりのある行動)が課題である。 ●表現力(話し合う力・説明する力)が課題である。 ●不規則なメディア使用や不規則な生活習慣が課題の児童も見られる。	重点努力目標	【学校教育活動の改善と充実】 ◎健康教育の推進 ◎学力向上に向けた取組の充実 ◎道徳教育の推進 ◎特別活動の充実 ◎特別支援教育の推進 ◎各種教育の推進 【安全・安心な学校づくりの推進】 ◎生徒指導の基本的徹底 ◎いじめ根絶に向けた取組の強化 ◎心の教育と教育相談体制の充実 ◎安全教育の推進 【働き方改革の推進】 ◎教職員の資質向上 ◎服務規律の確保 ◎働き方の意識化と業務改善 ◎地域に根ざした学校

※1		※2		※3			
領域	重点番号	評価項目(努力事項)	指標(見とる方法と判断の目安)	達成度	成果又は課題	評価	改善策等
学校教育活動の改善と充実	★①	健康教育の推進	・学校保健委員会実施(年6回) ・地区保健発表会実施(1回) ・職員、保護者、児童による共通アンケート肯定的回答90%以上	◎	○学校教育活動の改善と充実を6つの項目を柱として推進した。健康教育の推進、道徳教育の推進、特別活動の充実、特別支援教育の推進、各種教育の推進に関しては、指標は達成し、学校教育活動の改善と推進を図ることができた。学力向上に向けた取組に関して課題がある。	B	・健康であるからこそ、学習に運動に全力で取り組むことができる。本校の特色である健康教育の重要性を再認識し、次年度も取組を継続する。学校・家庭・地域で連携し、児童のことを共に考え、実践を深めていく。  ・ゲームやSNS等の利用の仕方について、次年度は学校保健委員会の柱として取り組む。各地区の保健活動の取組の中に取り入れていただき、学校・家庭・地域で連携した取組となるよう計画する。  ・学力向上に向け、授業改善の継続、チームティーチングや少人数指導などの指導体制の工夫、学習規律や心理的安全性の確保の徹底(学級経営の充実)、課題の出し方の改善(個別最適な学習課題)に取り組む。特に、話し合い活動や説明する活動を1時間の授業の中に位置付けることの徹底を図ったり、学級経営の充実を図るために、4月の学校行事等の改善を行ったりする。
	★②	学力向上に向けた取組の充実	・雲仙市学力調査において市・全国平均以上 ・端末活用記録の蓄積と基本操作段階表に基づいた基本操作能力の指導(全学級) ・職員、保護者、児童による共通アンケート肯定的回答90%以上	○	・児童、家庭、地域、学校三師、学校の協力・連携により健康増進を図ることができ、県や学校保健会の表彰を受けた。虫歯保有率は低く、一体となった取組の成果である。各地区で保健委員が活動を牽引し、地区保健発表会資料作成は児童が行うなど、児童、保護者、地域の主体となり、成果につながっている。しかし、ゲームやSNS等の利用の仕方が生活習慣の乱れにつながり、ひいては学校生活への影響を与えかねない状況とならないよう、学校と家庭が連携して指導していくことが課題である。	B	
	③	道徳教育の推進	・全学級にて道徳コーナーの設置と活用 ・道徳科で活用した教材の一元管理 ・職員アンケートの肯定的回答90%以上	○	・雲仙市学力調査においては、国語科、算数科共に、4～6年生は市・全国平均以上の得点率を達成したが、2、3年生は達成できなかった。各学年で1年間の学習指導の成果が表れたが、課題も明らかとなった。間違えた問題は、類似問題等を活用して、3月末までに復習を行い、定着を図る。学力の定着には個人差も大きく、一人一人に対応した個別最適な学習支援をさらに進める必要がある。	B	
	④	特別活動の充実	・キャリアパスポートの確実な実施(全学級) ・児童が学校生活を改善しようと提起し、取り組む活動の実施(1回) ・職員、保護者、児童による共通アンケート肯定的回答90%以上	○	・ふるさとに学ぶ学習活動を全学年で実施した。家庭、地域のご協力のもと、ふるさとの人・もの・ことについて学び、着実にふるさとへの愛着を深めることができていく。次年度も引き続き推進していく。	B	
	⑤	特別支援教育の推進	・個別の教育支援計画、指導計画の作成と活用、保護者面談の実施 ・特別支援連絡会の実施(月1回) ・職員アンケートの肯定的回答90%以上	◎		B	
	⑥	各種教育の推進	・「GIGAワークブックがさき」を活用した授業を実施(全学級)、情報モラル学習会(6年)の実施 ・ふるさと教育やふるさと食育の実施(全学年) ・職員アンケートの肯定的回答90%以上	◎		B	
安全・安心な学校づくりの推進	★①	生徒指導の基本的徹底	・シェアミーティング実施(毎週)による問題事案の共有 ・授業中での生徒指導の共通実践(チェック表の活用) ・職員、保護者、児童による共通アンケート肯定的回答90%以上	○	○安全・安心な学校づくりの推進を4つの項目を柱として取り組んだ。各項目指標は達成し、安全・安心な学校づくりを推進できた。しかし、人権意識を基盤とした人間関係をつくる力(言葉づかいや思いやりのある行動)に関してはまだまだ課題があり、いじめへつながるものである。今年度の取組を継続・強化し、児童にとってより安全で安心できる学校づくりを進めていく。	B	・安全・安心な学校をつくるために、人権意識の醸成を学校教育活動の様々な場面で実施する。特に、授業中での生徒指導を継続し、児童の心理的安全性を高め、人権意識の向上を図る。 また、いじめ根絶に向けて、「いじめは必ずある」という認識を全職員がもち、児童の変化に気付ける感性を磨く。そのために、職員間の同僚性を生かし、事例研修だけでなく、若手がベテランの経験に学ぶ場等を設定する。また、いじめアンケート(児童・保護者)、心のアンケートを本年度同様実施し、早期発見・早期対応に努める。
	★②	いじめ根絶に向けた取組の充実	・いじめアンケート(児童・保護者)、面談の実施(年3回) ・校長、教頭による全校講話の実施 ・職員、保護者、児童による共通アンケート肯定的回答90%以上	○	・学級経営の元になる授業中での生徒指導に力を入れて取り組んだ。①自分のよさがわかり、生き生きと学習しているか②友達の発言に共感しながら学んでいるか③調べる方法や予想などの自己決定の場を設定しているか④失敗を笑われない、しっかりと聞いてもらえる土壌であるかの4つの視点を教師が日々振り返りながら児童の心理的安全性が保たれるよう努め、人権意識の醸成を図った。	B	
	③	心の教育と相談体制の充実	・スクールカウンセラー活用(月1回) ・心のアンケート、面談の実施(毎月) ・職員、保護者、児童による共通アンケート肯定的回答90%以上	○	・いじめアンケートや心のアンケートと教師の観察を継続し、児童の様子の変化を見逃さず早期発見・早期対応に努めた。保護者への連絡、相談対応にも組織的に対応し、職員間の連携を図った。保護者と指導・支援の方向性を一致させいじめ解消へつなげている。	B	・安全教育の推進に関しては、危機はいつとも起こりうることを全職員自分中心としてとらえさせ、「もし起こったらどう動くか」を常に意識できるように管理職、担当職員の働きかけ、掲示物等で喚起する。職員研修及び育友会主体の研修会を2回実施する。
	④	安全教育の推進	・交通安全教室、避難訓練の実施(年4回) ・安全点検(毎月) ・事故0達成 ・安全管理マニュアルの改善と職員研修の実施 ・職員、保護者、児童による共通アンケート肯定的回答90%以上	◎	・教育活動および学校施設内で起こりうる危機について再確認し、安全管理マニュアルの整備を進めた。特に保健分野では2回(職員研修と育友会主体の研修)を実施し、対応の仕方を訓練し、共通理解した。	B	
働き方改革の推進	★①	教職員の資質向上	・人事評価面談の活用 ・通常学級担任の年1回の研究授業実施及び管理職による年2回の全学級授業視察 ・職員アンケートの肯定的回答90%以上	○	○働き方改革の推進を4つの項目を柱として取り組んだ。どの項目も指標を達成し、働き方改革の推進に努めた。 ・教職員の資質向上では、人事評価面談を各職員の資質向上につながる場となるよう活用した。また管理職による授業参観、助言・指導を通して授業力向上を図った。	A	・教職員の資質向上に関して、人事評価面談の当初面談時の目標設定、目標達成度の評価(資質の向上度合い)について、今年度同様、各職員としっかりと協議し、資質の向上を目指す。また、管理職による授業参観だけでなく、職員間の同僚性を用いた対話を基にした教科指導や生徒指導を学び合う場を設定する。
	②	服務規律の確保	・県、市発出通知文書の確実な周知と指導 ・管理職による年2回の研修の実施 ・不祥事0の達成 ・職員アンケートの肯定的回答90%以上	◎	・服務規律確保は各職員に自分事の問題であることとらえさせるため、管理職による研修、通知文を基にした指導を重ねた。また、服務規律強化月間(年3回)では、職員のアイディアを生かした取組も行い、絶対に不祥事を起こさない当事者意識の醸成を図り、不祥事0を達成した。引き続き取り組む。	A	・働きやすい職場づくりに関して、今年度同様休暇の取りやすい体制づくりを行う。また、職員間の連帯感や協働性を維持し、感謝の言葉や前向きな言葉のあふれる職員にとって働き甲斐のある職場となるよう努める。
	★③	働きやすい職場づくり	・定時退庁日設定(水曜日) ・職員の平均年休取得日数15日以上 ・職員アンケートの肯定的回答90%以上	◎	・働きやすい職場づくりのために、休暇が取りやすい体制づくりを行った。時短勤務には時間割の編成で対応し、休暇や年休取得者の代教については他の職員で協力して行った。平均年休取得日数は16.8日であった。また、職員間の協力・協働体制ができていること、職員室の明るく楽しい雰囲気も働きやすさにつながっている。	A	・学校・家庭・地域の連携強化に関して、学校からの情報提供、児童の様子等の情報共有に努める。また、地域の方々との交流を深め、支えてもらうだけでなく、学校が地域のためにできることを考える。
	④	学校・家庭・地域の連携強化	・学校ホームページの更新回数20回以上 ・学級通信、クラスルーム等での情報発信毎月1回以上 ・育友会行事への職員の参加率90%以上 ・職員、保護者の共通アンケート肯定的回答90%以上	◎	・学校通信、学級通信、学校ホームページ、安心メール等で随時発信し、情報を公開している。また、保護者への電話連絡等も積極的に行い、学校教育活動への理解と協力を得ることができている。	A	

※1 重点努力目標に関わる評価項目に★をつける。  
 ※2 各評価項目の達成度を、指標をもとに、◎(十分に達成できた)、○(概ね達成できた)、△(あまり達成できなかった)、▲(全く達成できなかった)で評価する。  
 ※3 各領域全体を、評価項目の達成度をもとに、A(十分に達成できた)、B(概ね達成できた)、C(あまり達成できなかった)、D(全く達成できなかった)で評価する。